

代表質問

平成27年度の施政及び予算編成方針に対する各会派代表質問を、3月5日と6日に行いました。

箕面市議会には、現在5つの会派があり、代表質問は政策上の問題について、市長などに質問するものです。（発言会派順に掲載、○印は質問者）

公 明 党

○田中 真由美
岡 沢 聡
西 田 隆 一

支え合う地域づくり

トピック

問 ①認知症は早期診断・早期対応が重要だが診察に至る過程が大変難しい。認

知症初期集中支援チームの体制整備を要望するが見解は。②市でも認知症サポーターの養成を推進している。今後は地域で活躍してもらえる取り組みが必要であると思うが見解は。③生活困窮者自立支援事業が制度化され、学習支援事業は教育委員会の学力保障・学習支援事業の中で実施されるため、これまでの委託先と変わる可能性がある。連携の必要性が高まるが、市はどう関わっていくのか。

だけのよう検討する。③市や教育委員会、学校が定期的に状況を把握し、対象者から見えてくる世帯全体の課題を共有化し関係機関と連携して自立へのサポートに努める。



教育施策について

問 ①英語教育は結果の追求ではなく、楽しいと思うことで結果がついてくる進め方を望むが見解は。②いじめ防止対策推進協議会が形だけにならぬよう、学校と教育委員会だけではなく行政内のさまざまな相談窓口で、いじめの兆候を把握するため、しっかりとアンテナを張ってほしいが見解は。③保育所での病児保育実施は高く評価するが、職員全員が病児保育時に、職

員の病院への付き添いや搬送が必要な場合など、あらゆる事態を考えた体制の整備を望むが見解は。
答（教育長） ①学級担任、英語指導助手、英語教育支援員の3者がそれぞれの特性を生かしながら、子どもたちが生きた英語に触れ、慣れ親しむことにより楽しい英語教育を進めていきたい。②市民相談や市に寄せられるメールなどの情報もキャッチして関係機関との連携を保ち、子どもたちがいじめのない学校生活を安心して営めるよう努めていく。③さまざまな状況を想定した協議を関係者で行い、あらゆるリスクに対応できる体制の構築をはかる。
他に 安心な地域づくりについて
まちづくり施策について



大阪維新の会箕面

○神代 繁 近
尾上 克 雅
武智 秀 生
印藤 文 雄

北大阪急行線延伸事業と周辺まちづくりについて

問 ①（仮称）新箕面駅周辺では、緑や田園風景などの魅力を生かした箕面らしいまちづくりと併せて、大型商業施設への集客、交通結節点としての機能強化が課題だが、その取り組みは。②（仮称）箕面船場駅周辺は、保健医療、スポーツ、文化芸術、ビジネスなどさまざまな分野で高いポテンシャルを有する。我が会派が提案したグリーンホール（仮称）の建て替え移転の現状は。
答（市長） ①農あるまちづくりをめざす考えのもと、田園風景の保全に努めてい

く。また、集客性を高めるためバスロータリーなどの交通結節点機能を整備するとともに駅前にもふさわしい商業施設の再編を事業者に働きかける。②当駅周辺地を優先順位1位として決定。今後、ホールの規模など施設整備の検討を深めながら、平成32年度竣工をめざす。

子育てしやすい日本一と教育の充実について

問 ①英語教育の充実と強化について、これまで中学校に7名だった英語指導助手を、13名増員される計画だが、予想される効果は。②調査開始から3年が経過したステップアップ調査を、教員の授業力・指導力の向上にどのように活用されるのか。③平成27年度は、4年に一度の中学校教科書の採択の年である。「開かれた採択」における透明性は、まだまだ不十分であり、採択において一番重要な選定委員会が非公開である点を含め見解を問う。④利用しづらかった病後児保育のシステムを変更するとともに

新たに病児保育をスタートするが、需要予測を含め内容を問う。



答（教育長） ①全小・中学校に英語指導助手を配置することで、子どもたちが9年間、生きた英語に触れ、英語への興味を高め、英語の能力育成に大きな効果を発揮すると考える。②学校全体の学力向上などの取り組みに生かし、教員の授業改善度を測るツールとして活用する考えである。③採択過程で公開すると自由かつ達な議論ができない恐れなどがあるが、広く市民の声や意見を反映することは重要であり、今後、市役所にも教科書の見本の閲覧場所増設を検討する。④児童の急な発病時に保護者に代わり職員がかりつけ医に受診させる仕組みを新たに取り入れる。年間約26

00人の利用が見込まれる。他に「安心・支えあい最優先」と地域コミュニティについて

「緑・住みやすさ最先端」と地域創造について「予算編成」について

自民党市民クラブ

- 林 恒男
- 原 田 亮
- 中 井 幸
- 永 田 義和
- 牧 野 芳治
- 上 田 春雄
- 稲 野 一三

北大阪急行線の延伸と関連まちづくりについて

問 ①東部地区から大阪方面への利便性向上が期待できる萱野東西線は、順調に用地買収などが進められ一定のめどが立っていると聞かれますが、現在の進捗状況は。一方、箕面駅方面から大阪方面への利便性向上のためには、芝如意谷線の整備も

重要で、計画では萱野東西線以南から着手とのことだが、効果を上げるためには同線以北から先に整備すべきではないか。②市立病院は開業後35年目を迎え、建て替えの検討が必要と考える。今後、先進医療機器導入で高度な医療体制が整備される予定であり、市内や大阪府下だけでなく他府県からの来院が予想されることから、(仮称)箕面船場駅周辺に移設してはどうか。



(仮称)箕面船場駅周辺イメージ図

③萱野南図書館は、立地の関係から、規模の割には利用者が少ないと思われるので、現在、グリーンホールに移設候補地として検討されている(仮称)箕面船場駅周辺を公共施設ゾーンとし、同館を移設してはどうか。④市域には「9つの駅勢圏」が存在するとされるが、次の10個目を箕面森町

にしてはどうか。当地まで新交通システムを整備することにより、便利でバランスのとれたまちが形成されると考えるが、見解は。

答（市長） ①萱野東西線は、

全体の約8割の用地取得が完了し、工事は平成26年度末で約4割の進捗となる見込みである。芝如意谷線は、坊島4丁目交差点の渋滞解消をはかるため、萱野東西線以南から整備に着手するが、今後、北大阪急行線延伸時期を見据えて整備時期を検討したい。②(仮称)箕面船場駅周辺への移設はアクセスが格段に向上するため、有力な選択肢と考えられる。遠からず建て替えるを検討する時期が来ると考えており、引き続き情報収集を進める。③図書館は在職在職のかたも含めて市民誰もが利用される施設であるため、市内外からのアクセス性が高く交通結節点となる駅周辺に設置できれば、より利用しやすくなることから、有力な選択肢と考えられる。今後、敷地の売却益や整備費などを勘案しながら

検討していきたい。④現時点では、経費面や需要の見込みなどからハードルが高いと言わざるを得ないが、当提案は昭和43年策定の総合計画に北大阪急行線延伸が書き起こされたことに相通ずるものがあり、次代への貴重な一歩と受け止める。

日本共産党

○名手 宏樹
神田 隆生

国政と大阪府政を めぐる情勢について

問 今、地方は、暮らし、地域経済の衰退など、自民党政が招いた深刻な問題に直面している。大阪での「都構想」は、府と市の財源と権限を1人の指揮官に集中し、大企業支援や巨大開発を推進するものであ

る。暮らしと雇用を守り、中小企業の振興で内需主導の経済成長が必要だ。市長は、「都構想には賛成、緩やかな道州制には賛成、しかし、市町村合併には反対の立場」だった。この立場に変わりがないか。「基礎自治体のあるべき論」を問う。

答（市長） 大阪都構想と道州制、市町村合併への認識について、スタンスは全く変わっていない。基礎自治体の強さは市民ニーズへのきめ細やかな対応で、広域行政のメリットは基礎自治体を超える行政領域への広域的視野からの対応であり、それらに応じた役割分担が基本と考える。「基礎自治体のあるべき論」も、同じく役割分担から生じる姿が答えである。

市民の命と 暮らしを守る施策が 充実した市政を

問 本市では、「緊急プラン」で医療、高齢者、障害者の分野で冷たい施策を実施してきた。一方で、莫大

な予算をつぎ込み彩都や箕面森町の開発、北大阪急行線延伸事業が進められている。暮らしが大変なとき、国の悪政から住民を守る「防波堤」の役割が問われている。市長は施政方針で、「安全・安心な箕面を実現することを約束する」と述べた。ならば、社会的弱者に、もつと支援すべきである。社会保障の充実で安心して生活ができる施策について問う。

答（同） 国民健康保険については、本市の所得に占める保険料率は府内で低く、一般会計からの財源充当で引き下げを行っている。介護保険・高齢者施策については、多様な提供主体・サービスが早く充実するよう新しい総合事業を早期開始する。生活保護については、きめ細やかな対応が可能な人員体制で、適切な保護の実施に努めている。障害者施策については、介護保険サービス対象の65歳以上のかたも、必要に応じて障害福祉サービスを利用して障害としており、移動困難者の生

活を支援するオレンジゆずるタクシーは、低廉な料金で行き先などに制限なく利用可能としている。

他に 子どもと教育、子育て支援について安心して住み続けられる街づくりについて地域振興と雇用をふやす街づくりについて憲法と平和をまもる街づくりについて



箕面政友会

○二石 博昭
中嶋 三四郎
川上 加津子
内海 辰郷

北急延伸に伴う 周辺まちづくりと 防災対策について

問 ①北急延伸は実施設計、事業認可など手続きを経て、平成28年度着工、平成32年度開通予定である。(仮称)箕面船場駅周辺にグリーンホール移転を検討しているが、(仮称)関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センターとどのように連携させるのか。②グリーンホールはPFI方式で建設し、ネーミングライツ方式を導入できないか。③昨年8月の豪雨災害で露呈した課題は、局地的豪雨の事前予測と、職員が災害現場での確に対応するための備えであった。克服に向けた取り組みは。健康寿命延伸を目的として、リハビリやけが予防の研究を進め、アスリートなどの利用も想定している。今後、機能や建物規模などとともに、ホールとの連携策も検討していく。④PFIを前提として、対象施設の前提条件の整理を行っている。

また、ネーミングライツ方式導入も検討を進める。③雨量を予測するシステムを構築するための気象予報専門機関との連携や職員緊急参集システムの再構築など、いち早く災害対応がはかれるよう検討を進めている。

健康寿命の延伸と、がん検診率の向上について

問 ①予防に力を注ぎ、健康寿命を延ばすための取り組みを着実に進めていかなければならない。そのためメニュー作りに、コミュニケーションビジネスをつなげていく発想も必要である。企業にも参加してもらい、高齢者の選択肢を広げることが必要だと考えるが見解は。②がんは誰にでも起こり得る身近な病気である。しかし、予防と早期発見と早期治療によって死亡は防げる。本市の検診率は他市より高いが、現実の数字は決して高くない。検診率を高めるための取り組みは。
答(同) ①高齢期を元気に過ごすためには、幅広い世

代で健康づくりの習慣を身につけることが重要である。親と子と孫など家族ぐるみで参加しやすいイベントの展開など、さまざまなかたからの意見を聞いて仕掛けづくりを工夫するとともに、健康寿命の延伸に向けたコミュニケーションビジネスの可能性なども追求していく。②過去の未受診者も含めた受診勧奨を推進するとともに、がんが身近な病気であることを具体的に示した上で、検診の重要性や受診しやすさなどを啓発していく。



他に 職場一体感と活力ある市役所づくりについて
子育て支援策について
学校教育施策について
公営企業の事業運営について

増田京子議員、北川照子議員及び中西智子議員は、会派に所属しておりません。

特別委員会

案件ごとの主な質疑、要望項目及び現地視察は、次のとおりでした。

交通対策特別委員会

(1月28日開催)

北大阪急行線延伸

について

(仮称)箕面船場駅の入り口設置予定場所、都市計画道路萱野東西線整備の進捗状況、説明会の実施状況及び質疑応答の内容並びに今後の実施予定、説明会参加者数に対する市の評価地盤調査結果を踏まえた設計における断層対策及び工事スケジュール並びに事業費増額の可能性、バス路線再編に向けたスケジュール、新駅周辺の整備内容、グリーンホールを船場に移設した場合の交通量予測、新駅への新たな交通手段検討の可能性、資材費高騰を見込んだ工事費なりスケジュールの考え方など。

オレンジゆづるバス

について

日曜・祝日運行における予測収支率未到達の場合の運行継続の判断基準及び必要性の検証、止々呂美地域運行の可能性など。

新名神高速道路

について

箕面トンネル工事の進捗状況及び湧水への影響の有無など。

彩都・箕面森町

地域整備特別委員会

(2月10日開催)

彩都(国際文化公園都市)

について

保育所の整備に伴う待機児童対策の見直し、豊川支所に緊急整備した簡易保育施設の在り方、彩都ないろ公園の整備コンセプトや安全性、衛生面、バリアフリーへの対策、彩都の丘学園の児童生徒数の当初推計

と校舎増築及びグラウンド移設工事の計画内容なり安全対策、交番や信号、図書館、地域防災ステーション、医療機関の設置に向けた働きかけ状況など。

箕面森町(水と緑の健康都市)

について

延期となった(仮称)履正社大学の設置の見直し、土地の寄附に伴う計画変更への考え、第3区域の工事の進捗状況なりオオタカ保全地を含めた環境対策への取り組み状況、箕面グリーンロードの採算性と社会実験の継続見込みなど。

視察(彩都)

彩都ないろ公園、国文都市4号線1号橋・2号橋工事など。

